

## ピーマンの収穫初期(5~6月)における尻腐れ果の混入低減対策

### 【1 成果の概要】

- (1) 収穫初期(5~6月)は、収穫時点で健全な果実においても収穫4日後までに最大で50%程度の尻腐れ果が発生する(図1)ため、収穫当日に選果し、その後出荷する現行の作業工程は尻腐れ果の混入を助長します。
- (2) 貯蔵温度8~35℃の範囲において、収穫4日後の尻腐れ果の発生率には顕著な差が認められない(図1)ため、8℃以上の温度帯によるコールドチェーンでは、収穫後に発生する尻腐れ果の低減効果は期待できません。
- (3) ピーマンの収穫後に発生する尻腐れ果は、収穫1~2日後に集中する傾向が認められる(図2)ため、収穫初期(5~6月)は、選果作業を収穫1~2日後に実施することで、出荷物への尻腐れ果の混入を低減することができます。

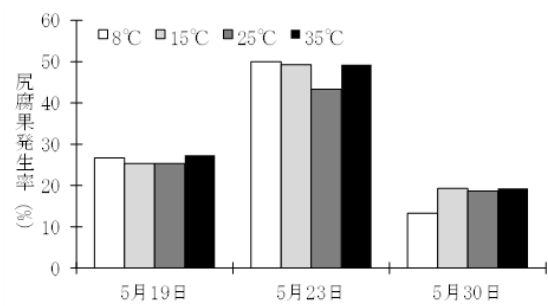


図1 収穫4日後における貯蔵温度別のピーマン尻腐れ果の発生割合

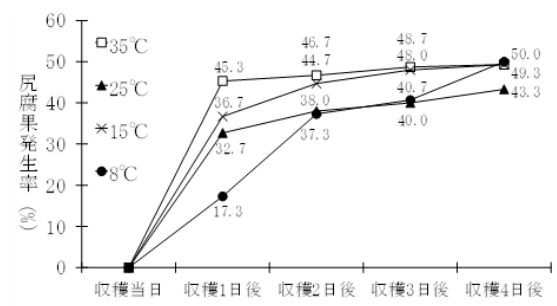


図2 収穫4日後までのピーマン尻腐れ果発生率の推移(5月23日収穫)

### 【2 留意事項】

- (1) 収穫後にみられた主な尻腐れ果(図4)は、収穫時の典型的な尻腐れ果(図3)とは明らかに様相が異なりますが、ここでは同一の尻腐れ果としています。
- (2) 本試験は、収穫後の果実を全暗かつ各恒温条件下で貯蔵したものであり、農家慣行条件下では未検討です。
- (3) 本成果は、収穫初期に問題となっている市場からの品質クレーム(尻腐れ果の混入)を低減するための当面の対策を提案するものであり、今後、新たな知見が得られた場合には、追加の情報提供を行います。
- (4) 詳細については、令和4年度試験研究成果書をご覧ください。



図3 収穫時の典型的な尻腐れ果



図4 収穫後にみられる主な尻腐れ果